

様式 1

授業科目 社会福祉援助技術各論 I B			科目コード番号	
【担当教員名】 伊藤富士江	対象学年	2	対象学科	社会
	開講時期	後期	必修・選択	必修
	単位数	2	時間数	30
【概要及び学習目標】				
<p><概略></p> <p>社会福祉援助技術各論 I は、個人、家族あるいは小集団に直接働きかける社会福祉における援助技術を扱う。各論 I A で学習した内容を踏まえ、各論 I B はビデオ学習やロールプレイングなどを通して実践に必要な面接技法、資源の活用法などの基本的技法を体得することに主眼を置く。また、社会福祉実践における最近のアプローチについても学習する。</p> <p><学習目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 直接援助技術の基本的な技法・展開方法を習得する。 2. 社会福祉実践における最近のアプローチの概要を把握する。 3. 各実践アプローチの適用について理解を深める。 4. 直接援助技術の構造と機能を体系的に把握する。 				
回数	学習の主題	学習内容		学習方法
1	直接援助技術と記録	社会福祉実践における記録の重要性を理解し、記録の様式と方法について学ぶ		講義
2	スーパービジョン	ケースワークとグループワークにおけるスーパービジョンの意義と方法を理解する		講義
3	ケースワークにおける面接（1）	ケースワークにおける面接の意義と特質、基本的枠組みについて実践例を見ながら理解する		講義とビデオ学習
4	ケースワークにおける面接（2）	ケースワークにおける面接のすすめ方をロールプレイングによって習得する		講義とグループ学習
5	危機介入アプローチ	危機介入アプローチの概要とその適用について学ぶ		講義
6	課題中心アプローチ（1）	課題中心アプローチの発展経過とその概要について学ぶ		講義
7	課題中心アプローチ（2）	課題中心アプローチの実践例をもとにその適用について理解を深める		講義とグループ学習
8	社会的支援ネットワークアプローチ	社会的支援ネットワークアプローチの概要とその適用について学ぶ		講義
9	ライフモデル	ライフモデルの形成経過とその概要について学ぶ		講義
10	エンパワメント・アプローチ	エンパワメント・アプローチの発展経過とその適用について学ぶ		講義
11	ケアマネジメント	ケアマネジメントの概要とその適用について学ぶ		講義
12	グループワークと適応分野	多様な分野におけるグループワークの実践を理解する		講義
13	直接援助技術における効果測定と評価	直接援助技術における効果測定と評価の意義を理解し、その基本的な方法について学ぶ		講義
14	まとめ	直接援助技術の最近の動向について学ぶ		講義
【評価方法】 定期試験（50%）、レポート（30%）、出席状況（20%）の総合評価とする。				
【履修上の留意点】 各論 I B はビデオ学習やグループ学習を通じて援助技術を体得していくので、積極的に授業に参加すること。毎回授業についての質問やコメントを書いてもらう。				

【使用図書】				
教科書・参考書等	書名等	著者名	発行所	発行年・価格・その他
教科書	『社会福祉援助技術論』	春見静子編著	光生館	2002年3月
参考書	『社会福祉基本用語辞典』	日本社会福祉実践理論学会編	川島書店	1996年2月 2,400円
その他 (プリント等)	学習内容にそって授業中にプリントを配布する			